

概況

1 取扱高

平成2年中における花きの総取扱高は、金額で220億41百万円、そのうち北足立市場が124億62百万円(前年比125)、平成2年9月8日に開場した大田市場が95億80百万円であった。

部類別で見ると、切花が147億49百万円と全体の66.9%を占めている。次いで、鉢花が21億31百万円、切枝が14億25百万円、らん鉢が13億45百万円、観葉植物が13億01百万円の順であった。

数量は、部類によって単位が違うので総数はでないが、切花が2億1,069万本(前年比155)、切枝が690万束(前年比174)、鉢花が473万鉢(前年比203)、観葉植物が190万鉢(前年比212)、らん鉢が50万鉢(前年比250)と大田市場花き部の開場の影響が大きく、前年に比べると大幅に増加した。

部類別平均価格は、

切花が1本当たり70円(前年比135)

切枝が1束当たり207円(前年比109)

鉢花が1鉢当たり450円(前年比130)

らん鉢が1鉢当たり2,679円(前年比147)となっている。

部類別の主な品目を見ると、

切花では、輪菊が5,155万本と全体の24.5%を占めており、次いで小菊が1,749万本、バラが1,586万本、カーネーションが1,366万本とこの4品目でほぼ半分に近い、全体の46.8%を占めている。

切枝では、千両が155万束と1番多い。

鉢花では、シクラメン652千鉢、次いでポインセチア349千鉢、シャコバサボテン252千鉢、ポットマム199千鉢の取扱数量であった。

らん鉢では、中小型シンビジウムが126千鉢、大型シンビジウムが107千鉢とシンビジウムだけで全体の46.5%を占めている。次いで、ファレノアシスが75千鉢、ノビル系デンドロビウムが60千本、デンファレが46千鉢であった。

2 月別市況

1月

(切花類) 前年同月をやや上回る入荷であったが、菊類の品薄をはじめ、グラジオラス、ストック、水仙等減少した品目が多く相場は堅調であった。今年から休日が原則木曜日に変わったため、月、水、金の入荷が多く、火、土は極端に少なかった。

(鉢物類) 鉢花、らん鉢が前年同月をやや上回る入荷であった。年末の買い疲れから荷動きの悪くなるこの月、陽気の急変動も影響して鉢物取引は開市ごとに不安定な相場展開となった。

2月

(切花類) 輪菊は愛知主体に入荷。前月、前年同月比若干減少の入荷と白菊主体の業務需要に支えられ高値よこばい。カーネーションは千葉、愛知中心に安定入荷しもちあい。バラは前年同月比1割増も買われて高水準の取引であった。かすみ草は洋花類の好調入荷さばきに引かれて、入荷量増加も高値安定。

(鉢物類) シンビジウムは最需要期越えの残品入荷が多く品質落ちから低調。アリムラ類は前年同月比5割強の増加で弱もちあい。

3月

(切花類) 入荷量は主要品目の小菊、カーネーションが昨年を下回ったほか、スプレーカーネーション、すかしゆり、フリージア、きんせんかが10%から15%減少したが、他品は20%程度増加した。記録的なバカ陽気の中、取引は節句や彼岸、各種式典等のイベント需要に支えられて全般に堅調推移し、かすみ草の高騰をはじめ、各品とも昨年の30%から40%高。切葉、切枝も同様に強含みに推移した。

(鉢物類) ポトスは中・小鉢主体に順調に増加、価格も安定推移した。大鉢物は入荷薄から高値。サイネリアをはじめ花小鉢は卒業式等の需要増から引き合い強く5寸物のサイネリアを中心に強含み。

4月

(切花類) 切花の入荷量は、前月彼岸需要で多かった菊類が減少したほかチューリップ、ストック、フリージア等の花が大幅に減少し、変わって、しやくやく、花しょうぶ等初夏の花が順調に入荷した。

(鉢物類) 鉢花が急減したものの観葉植物が需要期に入り、愛知主体に増加した。季節商材のあじさい、クレマチス、ミニバラ及び大輪バラ、インパチェンス等は人気が高かった。

5月

(切花類) 月間を通じての潤沢な入荷量から、総じて弱もちあい市況。ただし、第2週は母の日を控えカーネーションを中心に高値展開。この月入荷最盛期を迎える品目が多く、スターチス、アルストロメリア、しやくやく花しょうぶがピーク、すかしゆり、トルコキキョウも急増した。切葉、切枝は入荷昨年と同程度ながら高値基調で推移した。

(鉢物類) 鉢花では、ゼラニウム、日々草、セントポーリア、インパチェンス等が多く入荷したほか、カーネーションが母の日需要から5寸を中心に5万鉢強入荷(昨年並)。価格は昨年の5割高。らん鉢では、胡蝶ラン、ミルトニア等の寄せ植えが人気で高値。

6月

(切花類) 切花の入荷は、愛知、静岡及び千葉、埼玉等近県に加え、長野の出荷が早まった。昨年に比べりんどう、アルストロメリア、花しょうぶが減少したものの、主要品目のカーネーションの3割増をはじめ全般に増加しトルコキキョウ、くじゃく草、アリウムが5割方増加した。

(鉢物類) 中元を控えて、コチョウラン、オンシジウム、カトレア、アナナス等のらん鉢、観葉植物の中鉢、寄せ植が引き合い良好から高値を伸ばした。

7月

(切花類) 盆需要から菊類を中心に前半は入荷が多く、相場も強めに推移後半は買気弱まるも入荷量の漸減から下げた。カラ梅雨、高温の気象条件に加え、露地物主体の時期に入ったことから品目によっては大きくは出荷時期がズレた。全体量では前月、前年同月と変わらないが、品目別ではトルコキキョウが4割増加、ゆり類も1割方増えた。

(鉢物類) 贈答商材中心の取引となり、洋らん、ブーゲンビリア等に人気が集まった。

8月

(切花類) 異常高温が続いたこの月、切花全体に産地出荷予定期の繰り上げがみられ、取引は上旬荷余り感が強く安値でスタートし、盆需要を機に高値展開に変わり、月末まで高値を維持した。品目別では、すかしゆり、スターチスが大幅に減少したもので変わってりんどう、けいとうが大量に入荷した。切葉、切枝については切花に引かれて高値推移した。

(鉢物類) 全般に前月を下回ったが、贈答時期の終了に伴うらん鉢の減少を除き昨年を上回る入荷であった。取引は猛暑続きと行楽シーズンから引き合い弱く観葉植物、らん鉢が前月よりやや下げ、その他は前月並であった。

9月

(切花類) 9月は秋の彼岸需要を中心とする取引が盛況であったが、彼岸需要のピークを境に値崩れが生じた。しかしながら、月間を通じてみると品薄等の理由により、全般的に高値基調で推移した。切花は長野県をはじめとする高冷地からの出荷が堅調であったほか、すかしゆり、スターチス類、くじゃく草、デンファレが増加したが、その他は減少した。

(鉢物類) 取引は月初めから好調に推移し、中旬は雨天や彼岸期の切花需要の影響で取引がやや低調であったが、下旬には再び好転した。鉢花、観葉植物の入荷は昨年並、観賞樹の入荷は昨年よりも非常な伸びを示した。

10月

(切花類)ストック等の秋物の入荷が本格的になってきたが、10月になっても温暖な日が続いたため依然長野等の高冷地物の入荷が例年に比べると長引いている。取引は台風、高温気象等の影響で商品の出来具合は芳しくなかったにも拘わらず、ブライダル需要を反映し活発な展開をみせバラ、洋ラン、かすみ草を中心に高値基調で推移した。

(鉢物類)10月に入り、茨城・埼玉からの菊類、シャコバサボテンが大量に入荷したほか、他のものも順調に入荷した。観葉物は高温続きのため、例年になく依然として順調に入荷し、昨年と比べた取扱量でもかなりの増加となっている。

11月

(切花類)11月は気象観測史上最高の月間温度を記録したためか、切花の入荷量は前月、前年同月を下回った。品目別では、産地が暖地へ移ってきたことにより、菊類は秀芳の力が主流となってきた。洋花関係では、ブライダル及び秋のイベントへの需要で活発な取引を呈した。

(鉢物類)贈答需要で活発な展開を示した鉢物は鉢花、らん花を中心に堅調な取引であった。

12月

(切花類)平成2年は異常高温、台風被害の影響により、産地間の出荷状況に大差が生じた年であった。12月も天候不順による前進開花がアイリス、すいせん等にみられたが、取引はクリスマス、年末年始、贈答の最需要期に当たるため、赤系統のものを中心に終始高値もちあいで推移した。

松市(9日)は上質ものは堅調な取引であったが、全体では軟調であった。千両(16日)は豊作なため、全般的にやや軟調な相場であった。

(鉢物類)最需要期に当たる12月は好調市況で推移し、特にシンビジウムを中心とした高額商品に人気が集まった。前年よりもらん鉢の入荷が大幅に増加したが、草花類は前年並の入荷であった。